厚生文教常任委員会会議録

１　日　　時　　令和６年１０月４日（金）
　　１１時００分開会　　１１時４７分閉会

２　会議場所　　役場３階　第２委員会室

３　出席議員　　委員長：川上　均　副委員長：橋本晃明
　　委　員：山本奈央、桜井崇裕（欠席）、佐藤幸一、西山輝和
　　議　長：山下清美

４　事 務 局　　事務局次長：川口二郎

５　議　　件
（１）所管事務調査の報告について
（２）その他

６　会 議 録　　別紙のとおり

厚生文教常任委員会　【開会１１：００　閉会１１：４７】　令和６年１０月４日

【開会　１１：００】

（１）所管事務調査の報告について

委員長（川上　均）：只今より、厚生文教常任委員会を開催する。議題についてはこの間道外研修行った調査についてのまとめをやっていきたいと思う。短時間であったが行かれた方、今回どのような感想を持たれたのか等について出していただいて、それをまとめて所管事務調査の報告の一助としていきたいと思うのでよろしくお願いする。

橋本委員：今回、遠路四国まで所管事務調査で赴いて、現地を見てきたわけであるが、それぞれにまず報告書を個々に出してもらって、それからまとめたら良いのではないかと思うがいかがか。

委員長：それぞれの委員の報告書を出していただいて、それを元にまとめたらいいのではないかということであるが、皆さんの方からの意見を聞きたいと思う。

西山委員：そのとおりでいい。今日簡単に意見聞くなら聞いてもいい。

山本委員：私も個々に報告書を出してからがいいと思うし、共有する今日の場がせっかくあるので、こうっだった、ああだったということを共有する場があってもいいと思う。

委員長：最終的には、まとめについては皆さんの方から報告書があがってからまとめるということで進めたいと思う。せっかく本日集まっていただいたので、それぞれ皆さんの方から感想等を含めて出していただきたいと思う。佐藤委員は行ってなかったので聞いていただきたいと思うが、橋本委員よろしいか。まず神山町から。

橋本委員：合同で視察したけれども、本委員会としての項目を確認しながらということになると思うが、神山町では色々細かな部分ではそれぞれ関わる分もあったと思うけれども、主にはまるごと高専と公共交通機関、福祉の部分についての説明が主であったと思う。高専についてはなかなか他の自治体で真似できないような取り組みだったと思っているが、やはり、キーパーソンと言われるような人を大事にしていったところにこれができたというところがあると思っている。それから、公共交通機関については、本町でもコミバスを廃止して、病院買い物バスを重点的にやるという方向性が出ているけれども、それを飛び抜けてと言うか、神山町においては人口4,000人台であるにもかかわらずタクシーが３社もあるというのも驚いた。それに無制限でサービスを行うというような、金銭的なものはかかるけれども、そういうサービスを行っているということが１つの驚きではあったと思う。

山本委員：まず行く前に神山町創生戦略の人口ビジョンを読んでから行ったが、未来の子供たちにこれを読んでというようなことを書いてあったので、まず方向性が子供たち、将来につながる方にも今いる大人の方にもそうであるけれども、方向性が子供たちに向いていて、一緒に考えようという姿勢があるということと、行政だけじゃなくて住民の方を巻き込んで、人のつながりを大事にして取り組んでいるところが、橋本委員も言ったように、キーパーソンがいたから成り立ったというところが大きいのだろうというところがあった。五感を大事にしてグリーンバレーに関わった人からアドバイスもらってから見に行ったけれども、五感を大事に見てきてということだったので、環境的にも交通の便でも清水町と大分違うので、そういった中でも住民生活が良くなるように取り組んでいたので、清水町もまだまだできると思ったが、やはりタクシーは３

社もあって、橋本委員が言ったようにびっくりしたが、清水町でできるかわからないがすごいと思った。あとはまるごと高専は実際のところの子供の声を聞きたかったというのが感想である。

西山委員：私も色々感じたけれども、先程言われたようにキーパーソンがいて、その人がすごい力で色々なことをするということで本当に驚いたけれども、そういう人がいなければそう簡単にはできるようなことではないので、色々地方創生問題で人口減少というすごい大きな少子化と高齢者で一気に自分たちの町がなくなるのではないかというような、そういう危機感を感じて町民と一緒になって、一体になってこういう目的を達成するということはすごいことだと思って感じたが、そんな簡単には真似できるようなものではないけれども、保育所あたりでもうちらではやっていないような紙おむつ支給もやっていたりとか、色々な子供たち、小学生にもクラブ活動費とか入学準備金とか、そういうようなうちらでは到底できるようなものではないようなことをしているので、この辺は真似できないと思っているけれども、ふるさと納税 あたりで莫大な金額を持っていることはすごいことだなと思っているが、中学校とか町民を抱えて、まるごと高専でもふるさと納税を活用してすごいものを作って、神山中学校の廃校あたりを学生寮にしたりとか、町が完全にバックアップして一生懸命やっているということは本当にすごいことだと思った。公共交通の方も聞いてみたけれども、運賃の85％を町が助成して、個人負担15％と言うので、１回8,000円というのはどういうことなのかと聞いてみたけれども、町から離れていて１回のタクシー代がかなりかかるらしい、遠くて、ちょっと町に行こうと思ったら8,000円というのが目安でかかるらしい。それで１回8,000円ということで、何十回使っても関係なしで無制限になっている。それで１年間何十回使おうと何百回使おうと構わなく、１回最高金額が8,000円ということでやっているという話を聞いた。山々の中をタクシーが行くから、１回行くと3,000円、4,000円かかるのは普通らしい。それで１回8,000円にしているということで話を聞いてきた。あとは高齢者のためのタブレット、60歳以上の方に１世帯１台ということでやっているということで、本当にすごいことをやっていると思ったけれども、これも町あげてきめ細かく町が応援して、温泉に相談窓口を開設していつでも対応できるようにして、町民のおばあちゃん方が自分たちで教えながら聞きながら友達を巻き込んで広げていくというような、そういう素晴らしい話も聞けたので良かったと思っている。

委員長：私の方からは、主に高専の関係と高校の関係で、特に高専の方はある程度はホームページでも内容がわかったので、神山高校の関係がどのようになっているかということを私も知りたかったけれども、梼原も同じであるが、町を上げて高校を支援していくという形では、まだまだ可能性があるというのは今回改めて感じたことである。もちろん寮も作って県外からも生徒が来るような形のものを持っているし、驚いたのは両方の町であるが、町のホームページに高校が出ている、高校もしっかり載せているという分では、一体的な取り組みというのはすごいと私は思った。そういう部分では、まだまだ清水としてもやれる可能性は本当に無限大にあるということを力強く感じた次第である。今話もあったように、タブレットの関係も含めてお年寄りを大切にするということと、それを一つのきっかけにして、タクシーの予約なども含めて全部それでできる形にするソフトも作っているということで、取り組みが半端ではないというのをすごく感じたところである。先程西山委員からもあったように、8,000円を上限にした内容については、こういう人口規模でもできるというのが、総体の予算がいくらぐらいかかっているのか聞きそびれたので、その辺は失敗したと思ったが、そういう取り組みがまだまだできるということを改めて感じた次第である。その他に神山町自体が色々な部分で有名なところで、本当はで短時間で訪問するのではなくて、２日ぐらいかけてゆっくり地域を見たい、梼原町も同じであるが、まだまだ見るところはいっぱいあるという部分では、改めてもう一度行ってみたいという気もするし、まだまだ可能性あるのではという部分では、非常にそういう感想を持った次第である。キーパーソンの部分はもちろんあるが、そういう人がいなければまちづくりできないのかと

いうことにもならないと思うので、良い面は積極的に吸収しながら、清水として何ができるのかということを改めて実感した今回の神山町の視察だと私は思っている。続いて梼原町について皆さんの方から若干の感想等あれば出していただきたいと思う。西山委員からいいか。

西山委員：梼原町は人口も少なくて3,000人ちょっとぐらいの小さな町なので、本当に町がなくなると、本当に危機感を持って一緒に話聞くと町民と行政が一緒になって何事もやるというような、そういう意気込みが感じられたと思っている。そういう中で小中一貫校として４・３・２制を採用して、１つの施設で１年生から中学３年生まで一緒に生活しながら勉強できるというような話も聞いたので、１年生から上級生の姿を見ながら授業したり、５年生では中学校の制服を着て中学校の教室に移動したりとか、勉強も授業も受けたりというそういうようなものもやっていて、中１のギャップもなくスムーズに行けるというような話も聞いたので、素晴らしいことだと思っている。小学校１年生からジャージを１着提供するとか、５年生に制服を贈るとか、そういうことをやっているので、すごいと思って話を聞いたけれども、また、寮生活も出来るようになっていて、１ヶ月1,500円で生活ができると、寝具も提供されて何もなくていいような感じなのですごいと思って、1,500円で給食費もみんな含まれているというような、そんなすごい町で、町ぐるみで応援しているということはすごいことだと感じてきた。梼原の高校はなくなるという危機感から野球の監督を町外から連れてきて、そのおかげで子供たちが名監督に教えていただきたいという子供たちの思いがこの町に現れて、一気に高校生が増えてしまうというような、そういう話も聞いていたので、うちらの高校にもどういうようなことができるか、色々これからも考えていかなければならないということが非常に勉強になった。

山本委員：教育長に話を伺った、梼原高校に野球部の有名な監督が来て、野球の関係で梼原高校を選んで来てくれるという事だったけれども、生徒が増えて高校の存続もきっと叶っているのですごく良いことだと思うけれども、お金をかけてお子さんの支援をしているけれども、そのお子さんが梼原に戻ってきて仕事をしたいという選択肢が広がるようにまだ取り組みが途中であったということだったので、清水でも重ねるとしたら、清水高校の存続とともに清水に帰ってくる道を広げていくこと、考えていくことが大事だと思った。取り組めることはまだあると思う。４・３・２制、なぜ４・３・２なのかを聞いてなかったと思って、どういうように取り組むかは聞いたけれども、その分け方にした理由を聞かなかったから聞きたかったということと、建物がすごく立派なので、それもここを選ぶきっかけになったり、地元の方からの満足感があるのかももう少し知りたいことがあったが時間がなかった。あと英検に力を入れていることとかも、なぜ英語なのかというのも知りたかったというのがあるが、取り組みを参考にできたので清水町でも活かせるところは活かしたいと思う。

橋本委員：継続で調査することになった小中一貫教育について話を伺って、４・３・２という分け方についてははっきり聞かなかったという話もあったけれども、一応滑らかに移行していくということで５年、６年と中１、またがる部分を作ってギャップのないような形にしていくということが主だったと思うが、清水町も小中一貫教育をやる方向であるけれども、分離型なので、そこが一貫でしながら校舎が別というところだと梼原で取り組んでいたようなやり方というのは同じようにはできないと思った。それから、高校振興の部分であるが、町として、こちらで言えば道立高校に対してそこまで踏み込んで色々なことができるのかという思いは皆さん共通であったと思うけれども、聞いてみれば元々は村立だったのが存続の危機になって、それで県立に格上げしたと、それを今度また町で支援していく形をとっているということで、どうしても高校を残したいという思いがずっと昔から歴史的にあるのだという事は感じた。それと、野球部に重点的に力を入れて高校の存続を図っているという部分、すごく戦略的だと思うが、振り返って清水を見たら、アイスホッケーで清水高校を存続させようという動きが同じようにできるのかどうかというところも町の方針として検討していく上ではど

うしても避けて通れない議論になるという気はした。

委員長：私の方からは、先程も言ったように小中一貫と高校の関係を知りたくて行ったが、小中一貫に関しては、こども園から始まって小中学生、高校までを通した18年間の一貫した教育というのは県立高校なのにできるのかという部分では、やればできるのだというのを感じた。先生方も中学校の先生が高校行って英語を教えるだとか、逆に高校の先生が中学校に行って同じような形で英語を教えたり、県立高校の先生方との交流が一体でされているというのは本当に驚きで、やればできるという部分はすごく感じたところである。小中一貫の関係では、小さな町なのに新たに学校作って一体としてやっているというのは、予算のかけ方というのは少し違うのではという部分と、それと合わせて隈研吾氏がゆかりの人ということで、地域資源、森林を活かして隈研吾氏の景観と調和した施設を作っている、庁舎もそうであったが、そういった中でうまくそういう資源を活用してやっているというのもすごいと、予算はかなり使っているという部分と、高校も含めて年間予算が清水の半分ぐらい、人口規模でいったら半分ぐらいなので60億ぐらいの中で教育に、高校の部分を含めた予算が約7,000万近く使っているという事は、清水の規模で言えば、清水高校に対して１億円以上のお金を使っていると言うようなことになると思うので、現実1,000万も使ってない中での高校支援というのが、本当にどこまでできるのかという部分では、まだまだやること、できることがあるという部分と合わせて、神山町もそうだが寮に対して県外から、遠くから生徒を受け入れるということで、野球部も含めてしっかりとそういう受け入れ体制ができている。足りなくて今増築を考えているという部分では、予算をうまく取ってくるというのはすごいと思う。寮だけでは予算が取れないけれども、移住定住の関係と寮の複合施設の形にして県や国から予算を取ってくるというのは、やり方は色々あるのだなというのがつくづく今回の研修の中で感じたところである。その他ここも実際に見ようと思ったらものすごく見るところがあって、地形的にカルスト高原とか見てみたかったし、隈研吾氏の建物などもじっくり見てみたかったし、色々な面でまだまだ 見たかったとこがいっぱいあったが、短時間ということで話だけ聞いて終わっているというのは非常に残念だったというのが今回の感想である。その他、町ぐるみで取り組んでいるというのがすごいことだと思う。神山町はつなぐプロジェクトでやっているが、梼原町は別な形で町民と一体となってまちづくりをしているという部分では、清水の部分でまだまだできる部分があるということは非常に感じたような次第である。簡単であるが私の感想としては以上である。最後、北区の関係について皆さんの方から意見等出していただきたいと思う。橋本委員いかがか。

橋本委員：実際にすでに交流も始まっていて、植樹が行われたということで、大きな話をしてしまえば都市と地方がお互いのことを理解し合うというのは、日本の国を成り立たせる上では非常に大事だと思うので、こういう交流は良かったのではないかと思うが、ただ、北区にしてみればお金を出してそれが自分のところにどんなメリットがあるのだろうというところが、まだ議会の議員の間でも若干意味づけに濃淡があるというように感じて帰ってきたところである。今後これを継続していくことでそういったものも理解が深まっていけばいいと思っている。

山本委員：北区の人口が35万7,701人ということだったが、この方たちに清水を知ってもらうことが徐々に始められたら、清水に来てくれる方も増えてくれたら嬉しいと思って、関係性を続けていくことは大事なので、神山町も同じだけれども地道に努力していったのが形になっているので、田舎の良さも都会の良さもこういうように関係人口を作っていくことが大事だと思ったので、続けていくことが大事だということが実感で沸いた。知ってもらうことが大事なので、区議会議員の皆さんにもこのように交流して知っていただくといいと思った。

西山委員：同じようなことになるけれども、色々な協定を北区と結んで、これからもただ協定を結んだだけで終わってしまわないように、それを大事にしてずっと続けていくことが

一番大事だと思う。今回視察してみて色々なショップも見させてもらったけれども、清水の商品も置いていただいて、売っていただいているということで本当に良かったと思っているけれども、そういうものも少しずつ調べていけば少しでもいいと思うけれども、今回Ｊクレジットで北区から子供たちが20人ほど来町していただいて、植樹していただいたということが非常にいいことだったと思っている。20年、30年と続いていけば、子供達も大人になってから、僕は小学生の頃に清水町へ行ったことがある、植樹したといういい思いを持って、また清水町に来ていただければいいのではないかと思う。子供達の感想で、医者になって清水町に住んで貢献したいなんていう子供たちもいたということを言われていたので、そういう子供のうちの体験ということが本当に一生忘れない思い出になるので、それを大事にしていっていただきたいという感じである。清水町からも子供たちが北区へ行って体験してきたということも言っていたので、これからもそれを続けていってほしいと思う。

委員長：私の方としては、子供たちの交流というのが一番始めやすいというのはあると思う。そういう部分では今回のＪクレジットの関係の植樹をきっかけにして、お互いの子供たちの交流をどこまで広げられるのかという部分は今後の課題だと思っている。先程山本委員も話していたが、人口規模が全く違う中では北区の人にどれだけ知ってもらうかというのは大きな課題だと思うが、そういう大きなことから行くのでなくて、一つ一つ子供たちの交流含めて進めていくのがきっかけとして大事だと思っている。特に清水も過去に姉妹町とか、熊本県との子供たちの交流もあったがいつの間にか途絶えるような形になって、そういう部分では反省も含めて今後この交流をどう継続していくかということをもう一度整理していかないとならないと感じた。ショップに関しては期限があるとか色々あると思うが、清水の特産品を知ってもらうという部分では１つのアピールの方法だと思っている。そういった中で今後どのように予算をかけながら続けていくかというのは、皆さんの中で検討していかなければならない課題だと思っている。先程橋本委員も話されたが、北区の議員もどこまで本当に清水との交流を願っているのかという部分は、確かに温度差があるのかもしれないが、そういう関心を持っている人たちを中心にして、少しずつ進めていくしか現段階ではないと思っている。１万円札が発行されて、多分渋沢栄一熱もだんだん冷めていった中でどのように事業展開していくかというのは、なかなか難しい部分もあると思うが、一つのきっかけの中で、手探りの中で進めていく必要があると私も思った。議員同士の交流と言っても、あまり滞在がない中では難しい部分もあったと思うが、私としてはそういう感想を持った。一通り皆さんの方から神山町、梼原町、そして北区についての今回の視察の感想を聞いた。題材的には厚生文教常任委員会なので、小中一貫の教育の関係と高校振興の関係、そして北区との郷土の教育の関係、ふるさと教育の関係について今回視察してきた。そういう部分で今回の皆さんの感想を取り入れながらまとめたいと思うが、どのような形で進めたらいいか。それと、皆さんの方から報告をいつぐらいまでに出していただくのか、期日を決めないと進められない部分もあるので、10月に入ったが、今後も色々行事もあると思うので、来週の金曜日、11日までに研修報告という形で提出していただく形でよろしいか。

（「はい」との声あり）

委員長：それでは、それを元にしながら私と副委員長と事務局と合わせてまとめさせていただくような形でよろしいか。

（「はい」との声あり）

（２）その他

委員長：それでは、そのような形で今後進めていきたいと思うので、皆さんの協力をお願いする。

以上で視察の関係、所管事務調査報告の関係は終了として、その他皆さんの方から何かあれば出していただきたいと思うがいかがか。小中一貫に関しては継続審議になっているので、前回町として小中一貫の取り組みについて教育委員会の方から説明をいただいた。そして今回道外視察研修ということで、それぞれ小中一貫も含めた教育の振興について調査をした。今後12月に向けて進めたいと思うが、皆さんの方からもし何か他のところ見に行きたいとか、調査したいという部分があったら出していただきたいと思うがいかがか。もし希望等があれば。なければ次回の委員会までに皆さんの方に考えていただいて、今までの調査も含めてもう少し調査したいという中身があれば出していただいて、継続して進めていきたいと思うが、そのような形でよろしいか。

（「はい」との声あり）

委員長：次回について、来週に報告をもらってまとめに少し時間かかるので、事務局と総務も含めた中で相談しながら日程を決めていきたいと思う。そのような形で進めさせていただきたいと思う。その他皆さんの方から特になければ、以上で本日の厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会　１１：４７】